

人材養成目的

人間と人間がかかわる社会・自然に関する幅広い興味と関心を基盤にしつつ、人間の発達や支援に関して科学的に分析・理解する態度と専門的な知識や技能を身につけ、これらの態度・知識・技能を活用して、人が抱える様々な問題へ主体的かつ創造的に対処することで、人間社会に広く貢献することができる人材を養成します。

教育学類

College of Education

学士(教育学)

■ Bachelor of Arts in Education

人材養成目的

人間形成、学校教育開発、教育計画・設計、地域・国際教育にかかわる教育学の専門的知識・技能を活用し、学校、自治体、民間機関、国際機関など様々な分野で貢献できる人材、研究能力を有する人材を養成します。

求める人材

人間社会が形成してきた文化や教育・学習活動に対する幅広い関心と高い問題意識を抱き、学問的に深めたいという志を持ちながら、自主的に学び、考え、科学的、論理的、かつ実践的な問題解決能力を培う意欲のある人材を求めます。

卒業後の進路

卒業生の約4割は大学院に進学しています。大学院修了者も含め、国内外で広く活躍しています。

大学院進学例

■筑波大学大学院…教育学学位プログラム(国際教育サブプログラム、次世代学校教育創成サブプログラム、教育基礎科学サブプログラム)

■他大学大学院…北海道大学、東京大学、お茶の水女子大学、東京学芸大学

就職先の例

企業・団体

■マスコミ・出版…共同通信社、日本文教出版、早川書房、リクルート、テレビ長崎

■教育…ベネッセコーポレーション、学究社、秀英予備校、新教育総研、ステップ、富山育英センター、東進ハイスクール

■金融・保険…三菱東京UFJ銀行、みずほフィナンシャルグループ、三井住友銀行、常陽銀行、野村証券、第一生命保険

■商社・流通…三井物産、住友商事、伊藤忠商事、セブン-イレブン・ジャパン、ニトリ、しまむら、日本コープ共済生活協同組合連合会

■サービス…NRIデータiテック、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、キヤノンマーケティングジャパン、パソナ

■運輸・旅行…全日本空輸、名古屋鉄道、JR東日本

■建設・不動産…積水ハウス、レオパレス21

■福祉…日本赤十字、社会福祉法人筑波会筑波愛児園

学校教員

■公立…茨城県、東京都、千葉県、岐阜県、静岡県、愛知県、滋賀県、大阪府、兵庫県、広島県、福岡県、鹿児島県、横浜市

■私立…麗澤中学校・高等学校、東洋英和女学院中学部・高等部

官庁・自治体

法務省、自衛隊、福島県、茨城県、東京都、千葉県、愛知県、富山県、大阪府、茨城県警、つくば市、柏市、横浜市、四日市市、大阪市

独立行政法人等

日本貿易振興機構、筑波技術大学

教育の質の保証と改善の方策

■専門基礎科目「学校の経営・制度・社会」では、学類ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会が毎年授業アンケートを実施し、その結果を次年度の内容・方法に反映させています。

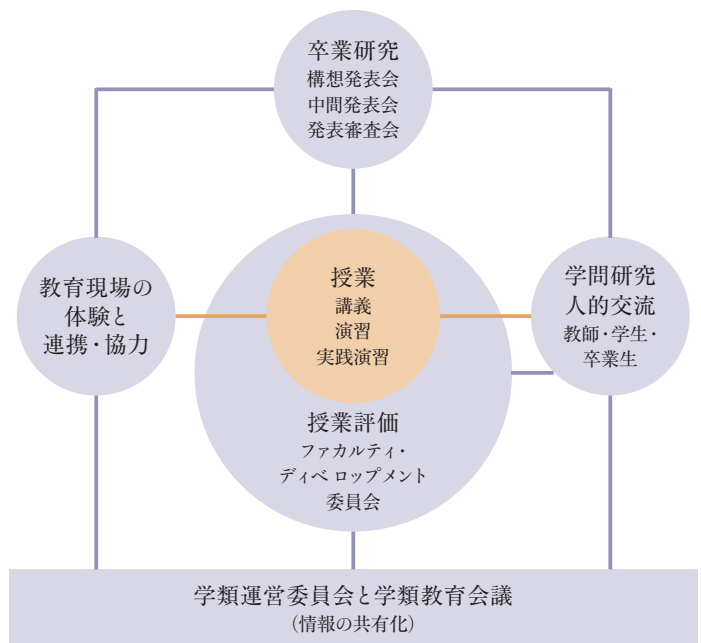
■学校の教員や社会教育施設の専門家を招聘するとともに、教育現場を訪問することによる教育現場との連携・協力を行います。

■定期的な卒業研究指導と厳格な評価を行うために、年間を通して、卒業研究のための構想発表会、中間発表会、発表審査会を全教員の参加の下に開催し、卒業研究の質的保証を行っています。

■毎年3月に、教員と大学院生と学士課程の学生とが一堂に会して、ペスタロッチ祭を大学会館国際会議室で開催し、第I部では教員と大学院生(ときには学外から招聘した講師)による研究発表、第II部では懇親会を行い、研究上の疑問や質問に答える場を設けるとともに、教育学関係のさまざまな学生と教員との人間的つながりの場としています。

■教育活動を継続的に改善するために、学生の学習指導・生活指導にかかわる情報を教員間で幅広く共有化するとともに、FD委員会の活動を充実させています。

教育力向上への取組



学士（教育学）

Bachelor of Arts in Education

学位授与の方針

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力(汎用コンピテンス)を修得し、かつ人間学群教育学類の人材養成目的に基づき、学修の成果が次の到達目標に達したと認められる者に、学士(教育学)の学位を授与します。

■ 教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を備えている

■ 教育に対する幅広い学識を修得し、体系的な見方・考え方ができる

■ 教職などの専門職に採用される水準の教育専門家的資質・能力を備えている

■ 教育学の理論と実践に関して、大学院に進学できる水準の基礎的研究能力を備えている

教育課程編成・実施の方針

学士(教育学)に係る学修成果を身につけるためのプログラムとして、次の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

総合的な方針

教育学を構成する様々な研究領域のつながりを考えて、教育学の総合性に対応した4つの系列(人間形成系列、教育計画・設計系列、学校教育開発系列、地域・国際教育系列)を設けています。学生はこれらの系列を指針としながら科目を選択的に履修しますが、将来の目的に合わせて特に関心のある系列を1つ選び、その系列の授業については集中的な履修を行うことが推奨されています。また、2年次になると、小学校教員免許状の取得を希望する学生は「初等教育学コース」に所属し、そうでない学生は「教育学コース」に所属することになります。

順次性に関する方針

■ 1年次…「基礎科目(共通科目・関連科目)」と「人間学群コア・カリキュラム」を履修し、教育学に加えて心理学と障害科学の基礎を学び、人間・社会・自然に関する幅広い興味と関心を育てながら、教育学の基礎としての人間に関する総合的な知と教養を培います。

■ 2年次…研究力を高めるために、「教育学研究法」を履修します。また各系列科目の概論的な講義を受講し専門性の幅を広げるとともに、「教育インターンシップ基礎論」「教育インターンシップ実践演習」を履

修します。

■3年次…系列ごとに設けられた「演習」及び「探究」を履修して専門知識の体系的な完成させるとともに、「教育学実践演習」を履修し、「卒業研究」の準備段階とします。それによって、教育に対する幅広い学識と体系的な見方・考え方を培います。

■4年次…原則として5月と10月に開催される2回の卒業研究指導会(構想発表会と中間発表会)で発表し、そこでの指導を踏まえて、4年間の学習の成果を「卒業論文」としてまとめます。

実施に関する方針

2つのコースと4つの系列を準備し、個人の専門的な研究関心を深めることと同時に、教育学という総合的な学問を様々な観点から学べるようにしています。さらに、小学校の教員免許状をはじめ、中学校(社会科)や高等学校(地理歴史と公民)の教員

免許状、および社会教育主事の資格に必要な科目も用意されています。

学修成果の評価に関する方針

各授業科目では、教育課程編成・実施の方針に基づいてシラバスに記載された方法によって公正かつ厳格に成績評価を行います。とりわけ、卒業研究は4年間の学修成果の集大成として重視し、2名の査読者による論文の審査を行うとともに、口頭での概要説明及び質疑応答を全員に義務づけ、それらの総合的な結果に基づいて評価を行います。また、学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に則して教育内容が適切に構成され、効果的な教育方法によって実施されているかを検証するため、教育インターンシップ実践演習や卒業研究等の一部科目を除く大多数の授業科目において授業評価アンケートを実施します。

教育学類履修モデル

